

『本当に主にすがりつく日』 ヨハネの福音書 20章1～18節 2017.2.12(聖日礼拝説教より)

『あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。』ヨハネ16:22

マグダラのマリヤは、復活したイエス様と最初に出会い、その秘密を知らされた主の友！

❶**不要な悲しみ、不要な涙**…主が十字架で死んで葬られて三日目の朝。マリヤは空っぽの墓に途方にくれて号泣していた。「なぜ泣いているのですか？」と御使いに問われ、復活して傍に立たれたイエス様からも問われた「なぜ泣いているのですか？誰を捜しているのですか？」と。同じ問いが2度！それは逆に「泣かなくてもいいんだよ」という神からのメッセージ！しかしマリヤには当然の悲しみだった。私たちは感情的に高ぶる時、慰め主がすぐ傍にいても気がつかない。神様の不在感、孤独や不安は拭えない。沈黙し、何もしてくれない神に怨みすら覚えて、『なぜ？どうして？いつまで？』と嘆くばかり。そこで主は私たちの名を呼ばれる『マリヤ(16節)』！姿は見えずとも声は聞こえる(ヨハネ10:3～4)。現実の厳しさに涙する私たちに、慰め主は、聖書を通し、クリスチャンの誰かを通し、自然界を通して語りかけ、心の目を開いてくださり、すぐ傍にすることに気づかせてくださる！

❷**マリヤに託された重大な秘密**…すがりついたマリヤにイエス様は、『わたしにすがりついてはいけない。わたしはまだ父のもとに上っていないから(17節)』と語り、重大な秘密を話された。『わたしと手と手とを握って抱き合い、心から喜び本当に祝うのは、もう少し先！わたしは今から父のもとに上り、やるべきことがある！』と。聖霊を世に遣わし、人々を救いに導き、悪魔を滅ぼした時が、わたしと誰もが永遠にすがりついて喜び、祝う時だと！主が決別説教で言われた『(今は悲しみがあるが)、わたしはもう一度あなたがたに会います(そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます)ヨハネ 16:22。』の「再会」は、復活の時以上に「再臨」の時を指す！主は言われた『わたしの父の家には、住まいがたくさんあります…場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます(ヨハネ 14:2～3)』と。あらゆる患難に終わりが来て、本当に主にすがりつき、手に手を取り合って喜び祝う時を、身を聖めて待ち望みたい！

★「どうして？何故？いつまで？」と途方に暮れる時、『泣かなくても良い』との御声に耳を澄ましたい。その御声は、どこで聴けるのだろうか。どうすれば聴けるのだろうか？